

「きっかけは、新潟県中越地震」

四條畷消防署救助隊 消防士 尾崎 俊夫（平成22年入職）

2004年、私が14歳の時に起きた新潟県中越地震で、当時2歳の男の子が崩れた土砂の中から救助隊の手によって奇跡的に救出された現場をテレビで拝見し、人の命を助ける消防の仕事に強く関心を抱き、消防士を志望しました。私は、救助隊としてまだまだ経験が浅いのですが、これまで様々な災害現場へ出動する機会がありました。市民の方々の尊い命が失われるのを目の当たりにした時ほどつらいものはなく、「あの時もっと訓練しておけば助かっていたかもしれない」という後悔の念に苛まれ、それが今もなお脳裏をよ

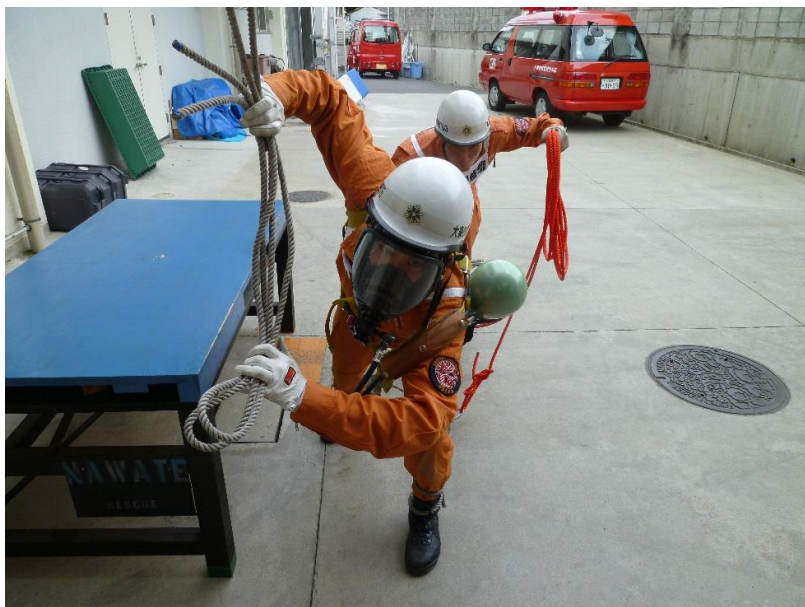


ぎります。しかしその反面、チーム一丸となって人命救助できた際に手紙等で感謝の一言を頂いた時は何事にも代えがたい達成感で満たされます。

また私は、1年に1回開催される消防救助技術近畿地区指導会において、ほふく救出の部の1番員として出場しています。これまでの訓練は非常に厳しく何度も挫折しそうになりました。しかしその度、仲間と励まし合い、支え合いながら乗り越えてきまし

た。その甲斐もあって、昨年開催された第42回消防救助近畿地区指導会において府下2位という成績を残すことができました。今年は昨年の屈辱を晴らすべく府下1位を目指し全国大会への切符を勝ち取りたいと思っています。救助隊は火災のみならず交通事故や水

難事故、また近年各地で多発する自然災害等の最前線で人命を守ることを任務としており高度な救助技術や様々な知識、強靱な精神力、体力、隊員間の強い絆が不可欠となります。しかし何より大切なことは『人の命を助きたい』という気持ちです。どれだけ知識や体力があろうとも『人の命を助きたい』という熱い強い気持ちがなければ救助隊として務まらないと私は思います。自分たちにしか助けられ



ない命があり、それが隊員の強い使命感につながっています。皆さんと崇高な使命を共有し、切磋琢磨できる日を楽しみにしています。